

www.ecolodge.gr.jp

日本エコロッジ協会

海外特集 タイ

リス・ロッジ





リス・ロッジ タイ・リス・ロッジ

JELA OVERSEAS PARTNER ECOLOGE HTロジ協会海外提携HTロジ

今回の海外ケーススタディーはタイ第2の都市チェンマイから車で1時間ほどのリス村に位置するエコロジ。ほとんどのエコロジが周辺の生息動物の観察や自然体験を「売り」にしているが、ここでは少数山岳民族との文化的交流と収益還元を一番に掲げている。少数民族との出会いは一旅行者としてではなく、村の存続に賛同する友人としてであり、この体験は一生忘れられないものになる。

92年にリス村の集落に建設されたが焼失してしまい、現在の村の外れに移転した。タイ北部の伝統建築様式を取り入れ、周囲の環境に配慮した宿泊棟は4棟各4部屋最大収容人数32人。アクティビティーはトレッキング、マウンテンバイク、急流下りなど自然を相手にするエコツアー、山岳民族との語らいを楽しむカルチャーツアー、ゾウの背中に乗って渡河したり2輪牛車で果樹園を観察したりと数日間はステイしてみたい。

イラク戦争、SARS、鳥インフルエンザとあまり良い話題がない中で、リス・ロッジは欧米を中心としたエコツーリストで賑わっている。何を求めて12時間以上のフライトに乗ってやって来るのだろうか。「世界でここでしか味わえない民族に出会うことができる」「アジアの田舎の文化に触れてみたい」と旅行者の談。

コンザベーション・インターナショナル、パシフィック・アジア旅行協会、トラベル・アジア、英国航空、コンデ・ネスト・トラベラーなど国際機関から多くのエコツーリズムアワードを受賞している。日本人旅行者はほとんどいないので、隠れ家的存在として指示されるのではないだろうか。



【リス族】

エコロッジの建設地に選ぶ際、山岳民族の中でも比較的人口の多い(750人)リス族の村が選ばれた。外部から人が入ることによる影響を最小限にするためである。チェンマイから50キロ北に位置し、他の少数民族の村にも近く、エコツアーを催す山や川にも恵まれている。夕食時には子供が踊りを披露してくれるが、決まった家族が受け持つのではなく、村内で順番が決められている。



【客室・宿泊棟】

部屋に入るとダブルベッドと蚊帳が目に入る。必要最低限なものだけが揃うシンプルさはエコロッジならではの。昼間は雨戸(ガラス窓はない)を開放して採光し、夜には裸電球を使用。虫除けを持参することが望ましいが、就寝時は蚊帳があるので快適だ。隣の部屋とは防音壁で隔てられているが、バスルームでは板間から下が見えている。トイレは汲み取り式、水は井戸を利用し、毎週水質検査をしているので安心。飲料水は部屋に常備されており、足りなければすぐ追加してくれる。



タイの暑い気候を利用して太陽熱で給湯している。各棟に120リットルのシステムを2機設置しているの、日本人好みの熱いシャワーを利用できる。生物分解されるシャンプーと石鹸のみを使うので、排水は地下浸透式を採用。水も豊富にあるので雨水利用はしていない。



食事はタイ北部とリス族独特の郷土料理が楽しめる。1人ずつ皿に盛られるのではなく、家族で囲む食事の雰囲気味わえるように大皿から取り分けていただく。取材時は宿泊棟の横を流れる小川で取れたウナギ料理がメインであった。もちろん激辛のタイ料理が苦手な人やアレルギーがある人には柔軟に対処している。左手にフォーク、右手にスプーンを持ち、肉、野菜、卵などを引きちぎってご飯とスプーンで食べるのが正統派だとか。辛味は別の薬味入れに入っているので個人で好みの味にする。



【エコツアー】

宿泊とのパッケージになっているが、リクエストすれば個人単位での移動も可能。朝チェンマイ空港か市内のホテルでピックアップされ、トラックの荷台（屋根付）にてリスロッジへ約1時間の道のり。涼しいうちにメータン・エレファント・キャンプまで約13キロほどマウンテンバイクに乗る。前半の舗装道は起伏も少なく快適だが、後半は未舗装・急勾配の坂もある。体力に自信のない人は常時後ろにいるサポートトラックに乗る。また途中でリタイヤしてもトラックに拾ってもらえるので安心。余裕があれば河川と山、田園の風景を楽しめる。



ゾウの背中に乗り、ジャングルを約1時間まわった後は川沿いのレストランでランチ。休憩したらミャンマーから流れてくるメータン川での急流下り。更衣室で水着に着替え、ヘルメットと救命胴衣を着用。ガイドを乗せた5人乗りのゴムボートで濁流を目指す。5月から10月の雨季は水かさが増す分楽しめる。

次にアカ族の村を訪れる。民族衣装に包まれた老婆の家で竹筒に入って出てきたのは味わったことのないお茶。薄暗い土間で民族の文化や習慣などガイドの説明を聞く。洗髪すると魂が逃げると信じ、約半世紀帽子すらとったことがない人がいるという。



最後は牛車に乗ってリス族の村をまわる。子供が追いかけてきて観光客に挨拶。村全体で歓迎していることが分かる瞬間だ。ガイドを含め踊りを披露してくれた子供や給仕、掃除する人などはローテーションをして収益金を広く還元している。去年は250万バーツ（660万円相当）を還元し、村の文化施設や生活向上に役立てている。日本も見習うところは多い。

[アクセス]タイ・バンコク空港から国内線乗り継いでチェンマイ空港へ。予約をしていれば空港出口で名前のプラカードを持ったガイドが迎えに来ている。詳細はウェブサイトにて確認してください。(http://www.lisulodge.com/)[英語]

1泊2日ガイド付エコツアー

- 1日目** チェンマイ空港または市内ホテルにてピックアップ
リス族の村でマウンテン・バイキング
ジャングルでの象ツアー メータン川沿いでの昼食
急流下り アカ族の村訪問、ティータイム
マウンテン・バイキング(または車)でリスロッジへ
郷土料理のディナーとダンスショー
- 2日目** 朝食(洋食または郷土料理) リス族の村散策
リスロッジにて郷土料理の昼食 果樹園、森林の牛車ツアー
リスロッジチェックアウト後チェンマイ空港または市内ホテルへ送迎
宿泊、食事、全ツアー込4,850バーツ(約13,000円相当)

予約はウェブサイト(英語)から可能。デイツアーから4日間のトレッキングツアー等も催しています。英語のツアーは2名から。日本語のガイドも手配可能。協会会員の皆様には事務局を通じて予約を承ります。【<http://www.lisulodge.com/>】